

## 得意分野を束ね、日本のものづくりを世界へ ゼネラルプロダクション株式会社

社名に表されている通り、ゼネラルプロダクションが目指すのはものづくり版“ゼネコン”だ。ゼネプロが受注窓口となって設計を行い、生産は鍛造、切削、熱処理、表面処理などの工程ごとに100社を超える企業の中から技術力、コストを見極め割り振り、強みを束ねる。受注しても一貫した品質管理や各企業への支払いなどで壁に突き当たる共同受注会社と違うのは「ゼネプロがすべての責任体制を負っていること」と、石崎義



公社長。生産工程を管理するスタッフを置き、QCD（品質、コスト、物流）を踏まえた各企業への指示を行い、各企業に短期で支払いをできるようにしている。「ボランティア社長」として働く気持ちを後押ししているのが「日本のものづくりに対する危機感」だ。石崎社長が東大阪で29歳の時に創業した株式会社タカコが挑んだのはヨーロッパの技術を基にした高圧ポンプの量産化だった。東大阪に集積する町工場を束ねファブレスでものづくりを行った。だが製品を大手企業に売り込もうとしても門前払いの連続。「最後の勝負」でドイツ・ハノーバーの見本市に出展するとボルボやポッシュなど大手企業から引き合いが来た。以来、キャッチアップしてくる世界の企業を「工法開発」で突き放し、気がつけば競争はいなくなっていた。現在は

米国、ベトナムにも生産拠点を構え、売上の85%を海外が占める。

海外企業と長年取引をする中で、日本のものづくりについて「海外勢には真似のできない技術を持ちながら、単工程しか担えない会社が多いこと」に気づいた。さらにそうした会社がアジア資本に買収され、根こそぎ技術と設備を持っていかれる状況を目の当たりにし「それが日本のものづくりを守るのか」と有志とゼネプロを立ち上げた。

2011年1月のキックオフ以降、ドイツやインドネシアの見本市に出展するなどして海外向けPRに努めてきた。米国からは海水淡水化ポンプ、モーターの受注を獲得した。「試作段階から量産まで見越した設計ができるのは日本だけ」と評価をもらった。創業から1年余りが経過し、プロデュース力が着目され国内での大きな契約も見えてきた。今後は、参加企業同士の交流会なども開き、束ねる力をさらに強めていく考えだ。

ゼネラルプロダクション株式会社

京都府相楽郡精華町光台1-7  
TEL\_0774-95-5030  
<http://www.generalproduction.jp/>

## 2

「骨」で音を聴く「骨伝導」という技術をご存じだろうか。「騒音下でも音が聴き取りやすい」「鼓膜のダメージを軽減できる」などのメリットがあるという。そんな骨伝導技術の研究と関連製品の開発を行っているのがゴールデンドゥダンス株式会社だ。起業前はごく普通の主婦だった代表取締役の中谷明子氏に、骨伝導事業に携わるようになったきっかけをたずねた。「とある展示会で骨伝導技術に出会い、『これを社会に広めることで、多くの人に喜んでいただけるんじゃないだろうか。夫婦で素晴らしい骨伝導技術を広める仕事をしよう』と、夫婦二人で骨伝導製品の販売代理店を始めたんです」販売代理店を始めて、骨伝導技術の可能性を改めて感じた二人。だが、その可能性をさらに広げるには、自分たちで商品を開発することが必要だと感じ、骨伝導製品を開発・販売する会社を立ち上げた。そして独学で骨伝導技術を学びながら自社製品の開発に没頭し、ついには大手メーカーも成しえなかった省電力化、高

ゴールデンドゥダンス株式会社

大阪市城東区古市3-22-19  
TEL\_06-4255-3030  
<http://goldendance.co.jp/>

音質化を実現し、さらに音楽が聴ける骨伝導ヘッドホンの開発にも成功した。革新的な技術開発力の秘密を中谷氏にたずねると、「我々は素人だった分、既成概念がありませんでした。過去の経験則にとらわれない発想と、お客様に喜んでいただきたいという信念、その二つがあったからこそ小さな会社が新しい技術を生み出すことができたのだと思います」近年は、NHKや防衛省などに製品を納入するとともに、大手自動車メーカーとの共同開発にも参画。さらに、展示会に出展すれば、ブース前は常に人が集まり絶えないほどの賑わいを見せ、世界中から注目が集まっている。この点からも、ゴールデンドゥダンスの骨伝導技術がいかに革新的で可能性に満ちているかがわかる。「色々大変な時期はあり

## 骨伝導技術で 世界中に喜びの笑顔を広げたい

ましたが、多くの方の喜びの声に支えられて今があります。常に『人のために役に立ちたい』という気持ちが大切なのだと社員には話しています」通信をはじめ福祉、音楽、自動車など、様々なジャンルにおいて、骨伝導技術は世の中を変える無限の可能性を秘めている。『骨伝導で喜んでいただける人を世界中に増やしたい』という中谷氏の夢が叶う瞬間は確実に近づいている。

